



2025 年度トルコ発掘報告会・ 第 32 回トルコ調査研究会のご案内

(公財) 中近東文化センター附属アナトリア考古学研究所は、2025 年度も 5 月から 11 月にかけて、ビュクリュカレ、カマン・カレホユック、ヤッサホユックの 3 遺跡で発掘調査を順次行いました。ビュクリュカレでは前 2 千年紀の粘土板の出土、カマン・カレホユックでは前 3 千年紀後半の大火災層直後の建築層、前 2 千年紀後半のヒッタイト時代の厚い灰の堆積層、また、ヤッサホユックでは前 3 千年紀後半に火災を受けた二つ目の大型建築遺構など、アナトリア古代史研究に貢献する貴重な考古資料の発見がありました。これらの調査の報告、および関連研究の成果発表等を二日にわたって行います。

なお、中近東文化センター総裁の彬子女王殿下には、特別講演「三笠宮家親子三代を繋いでくれたトルコのご縁」と題してご講演いただきます。

皆様のご参加をお待ちしております。

記

日 時	2026 年 3 月 7 日 (土)	13:00～16:45
	3 月 8 日 (日)	10:00～16:45

会 場 東京国立博物館 平成館大講堂 (東京都台東区上野公園 13-9)

受 付 東京国立博物館(西門) 平成館大講堂 1 階 入口
※受付開始時刻 7 日 (土) 12:00
8 日 (日) 9:30

参加費 2,000 円 (資料代として)

主 催 (公財) 中近東文化センター附属アナトリア考古学研究所

*Japanese Institute of Anatolian Archaeology (JIAA),
The Middle Eastern Culture Center in Japan*

3月7日（土）2025 年度トルコ発掘報告会

- 13:00 挨拶 横井 裕（中近東文化センター理事長）
- 13:05 大村幸弘名誉所長 追悼動画
- 13:15 特別講演「三笠宮家親子三代を繋いでくれたトルコのご縁」 彬子女王殿下（中近東文化センター総裁）
- 14:15～14:35 休憩（20分） -----
- 14:35 アナトリア考古学研究所の活動 2025 年度 松村 公仁（アナトリア考古学研究所長）
- 14:45 第 16 次ビュクリュカレ発掘調査（2025 年） 松村 公仁
- 15:20～15:35 休憩（15分） -----
- 15:35 第 38 次カマン・カレホユック発掘調査（2025 年） 松村 公仁
- 16:10 第 16 次ヤッスホユック発掘調査（2025 年） 大村 正子（アナトリア考古学研究所）
- 16:45 閉会の辞
- 17:10 懇親会



名誉所長 大村幸弘

2025 年はカマン・カレホユック遺跡の発掘調査（1985 年考古学的予備調査、1986 年第 1 次発掘調査）開始からちょうど 40 年の節目の年でしたが、5 月 20 日に当研究所の活動を牽引してきた初代所長の大村幸弘が急逝し、それに先立つ 3 月 6 日にはヒッタイト学者であり研究所の協力者であった元中近東文化センター研究員吉田大輔も逝去いたしました。ここにあらためてご報告させていただきますと共に、永年、両故人の研究および様々な活動をご支援くださいました皆様に深く感謝申し上げます。

アナトリア考古学研究所（JIAA）の活動

2025 年度も例年同様 3 遺跡の発掘調査と並行して、植物考古学、形質人類学、博物館学、考古学のフィールドコースを開催しました。博物館学フィールドコースは昨年度同様、1 期目は紙の保存修復、2 期目は布の保存修復を課題とするコースが開かれました。出土遺物整理、図面制作や資料のデジタル化、報告書の準備などは継続的に行われています。

彬子女王殿下には 9 月 18 日カマンの研究所までお成り頂き、3 遺跡の他、博物館、三笠宮記念庭園等、研究所の現地活動をご視察頂きました。

ビュクリュカレ遺跡 Büklükale

ビュクリュカレ遺跡はクズルウルマック（赤い川）西岸に位置し、城塞部とそれを取り囲む都市部からなり、径約 600m の規模を持つ紀元前 2 千年紀、前ヒッタイト、ヒッタイト時代の都市遺跡です。2009 年に発掘を開始し、10 年後の 2019 年に、アナトリアでは王宮所在地とされるボアズキョイ、オルタキョイ、カヤルプナルの 3 遺跡でのみ出土しているフリ語の楔形文字文書（宗教文書）が初めて出土し、以後毎年のようにヒッタイト語、フリ語の粘土板が出土しています。これらのことはビュクリュカレ遺跡が極めて重要な都市であったことを示しています。



隊長 松村公仁

カマン・カレホユック遺跡 Kaman-Kalehöyük

カマン・カレホユック遺跡は、トルコ共和国の首都アンカラの南東約 100km、アンカラ-カイセリの旧街道脇、クルシェヒル県カマン郡カマン市の東約 3km、クズルウルマックの支流の側に位置し、アナトリア考古学研究所のあるチャウルカン村の北約 1 km にあります。高さは 16m、径は 280m のアナトリアにおいては中規模の丘状遺跡で、1985 年に予備調査を行い、1986 年に「文化編年の構築」を主目的として本格的な発掘調査を開始し、現在に至っています。遺跡には少なくとも紀元前 4000 年頃から紀元後 15 世紀まで、5500 年の文化が堆積していることを確認しています。

ヤッスホユック遺跡 Yassihöyük

中央アナトリアの幹線道路にあるヤッスホユック遺跡は、南北 500m、東西 625m、高さ 13m の中央アナトリアでも比較的大きな遺丘と、その北裾野に広がる下の町からなります。2009 年に開始した遺丘の発掘調査ではこれまでに鉄器時代、中期青銅器時代、前期青銅器時代の 3 文化層が確認され、2018～2019 年には下の町において、遺丘上の第 II 層中期青銅器時代に平行するアッシリア商業植民地時代（紀元前 2 千年紀初頭）の居留区が存在が明らかになっています。2021～2025 年には遺丘頂上部で第 III 層（前期青銅器時代）に焦点を当てた調査を継続しており、これまでに 3 火災層と 2 非火災層に跨る 5 建築層に分かれる遺構群が確認され、紀元前 3 千年紀の中央アナトリアにおける都市の変遷を辿る貴重な手掛りを提示しつつあります。



隊長 大村正子

3月8日（日）第32回トルコ調査研究会

司会 多田隆治（千葉工業大学）

- 10:00 カマン・カレホユック遺跡出土炭化材の樹種同定からみた燃料材利用と古植生の変遷
林 竜馬（滋賀県立琵琶湖博物館）他
- 10:20 アナトリア地域における地球科学と考古学の融合研究の推進
総括 山田 桂（信州大学）
・トルコ中央アナトリア地域の湖底堆積物から古環境を探る
春木美桜（信州大学）他
・カマン・カレホユック遺跡とその周辺地域で見られる微粒炭変化
渡邊千隼（信州大学）他
- 11:05 アナトリア高原南部ナール湖年縞堆積物から古環境情報を取り出す試み
多田隆治（千葉工業大学）他
- 11:25 質疑応答

----- 11:30 - 12:50 昼 食 -----

司会 松村公仁

- 12:50 アルザワとの戦いと中央アナトリア — 西方諸都市とビュクリュカレ遺跡の関係 —
山本 孟（筑波大学）
- 13:10 ビュクリュカレ遺跡出土の象形文字封泥
マーク・ウィーデン（ロンドン大学）
通訳 山本 孟
- 13:40 ビュクリュカレ遺跡出土の粘土板文書の蛍光X線分析：ボアズキョイ土器片資料との比較
森脇涼太（千葉工業大学）他
- 14:00 質疑応答

----- 14:05 - 14:15 休憩（10分） -----

司会 大村正子

- 14:15 AI文化編年に向けた教師無し学習解析を用いたカマン・カレホユック遺跡出土彩文土器の分類
○河本大知（京都大学）・福田勝利（京都大学）・松村公仁
- 14:35 メソポタミアの彩文土器を復元する-2025年度実験報告
小泉龍人（明治大学）
- 14:55 カマン・カレホユックⅡ層の鉄製犁鋤 — 鉄器時代の開始と鉄製農具の普及
津本英利（古代オリエント博物館）
- 15:15 質疑応答

----- 15:20 - 15:30 休憩（10分） -----

司会 福田勝利（京都大学）

- 15:30 カマン・カレホユック遺跡におけるゴミ堆積物の化学・鉱物学的特徴とその時代変化
多田賢弘（千葉工業大学）他
- 15:50 カマン・カレホユック遺跡の炉跡から出土した炭・土の分析による金属加工炉の同定
佐竹 渉（千葉工業大学）他
- 16:10 カマン・カレホユックにおける初期の鉄生産についての研究の進捗報告
ヌルジャン・キュチュックアルスラン（千葉工業大学）他
通訳 岩本翔太
- 16:40 質疑応答
- 16:45 閉会の挨拶

<申込要領>

① 参加ご希望の方は、アナトリア考古学研究所ホームページ：<https://www.jiaa-kaman.com> の参加申し込みフォームからお申し込みください。

* 参加費 2,000 円（資料代）は、当日受付（平成館）にて申し受けます。

なお、どちらか一日ご出席の場合も、参加費は 2,000 円となりますので予めご了承ください。

宛 先： 〒181-0015 東京都三鷹市大沢3-10-31

（公財）中近東文化センター附属アナトリア考古学研究所

E-mail : tokyo@jiaa-kaman.org / Fax : 0422-31-9453

締 切： 3月2日（月）必着

定 員： 350名（定員になり次第、締切らせて頂きます。）

② 報告会終了後、懇親会を行ないます。どなたでもご参加いただけます。皆さまのご参加をお待ちしております。

懇親会日時：3月7日（土）17:10～19:00

会場：東京国立博物館 東洋館1階「ホテルオークラレストラン ゆりの木」

会費：一般：8,000円 学生：5,000円

※学生の方は当日学生証をご提示下さい。

* 準備の都合上、参加ご希望の方は3月2日（月）までにお申し込みくださいますようお願い致します。

* なお、懇親会費は当日の報告会受付（平成館）にてお支払い下さい。

☞ 参加費・懇親会費ともに、できる限りお釣りのないようご用意ください。ご協力のほどよろしくお願い致します。

<ご案内>

☞トルコ報告会・研究会
会場へは東京国立博物館
西門 からお入りください。
正門からは入場できません
のでご注意ください。

<交 通>

会場最寄り駅：

- ・JR 上野駅 公園口 徒歩約 15 分
鶯谷駅 南口 徒歩約 10 分
- ・東京メトロ 銀座線・日比谷線
上野駅 徒歩約 15 分
千代田線 根津駅 徒歩約 15 分
- ・京成電鉄 京成上野駅
徒歩約 15 分



(公財)中近東文化センター附属アナトリア考古学研究所 TEL: 0422-32-7665 (直通) < 11:00～17:00 / 月火水金 >
(公財) 中 近 東 文 化 セ ン ター TEL: 0422-32-7111 (代表) < 10:00～17:00 / 月火水金 >